

飯田市新型コロナウイルス感染症対策
第13回 専門家会議 次第

令和4年4月20日（水） 13：00～
オンライン（Zoom）会議

1 開 会

2 市長あいさつ

3 協 議

（1）お練りまつりの実施と感染対策に関するまとめ

（2）今後のイベントについて（オケ友、TOJ、人形劇フェスタ）

（3）その他

GWに向けた市民への呼びかけについて

4 閉 会

飯田お練りまつりの実施に関するまとめ

飯田市産業経済部商業観光課

令和4年3月25日から27日に開催された令和4年壬寅歳飯田お練りまつりにおいて、まつり終了後に出演団体の一部から新型コロナウイルス感染陽性者が生じた。主催者である飯田お練りまつり奉賛会から提出のあった中間報告を踏まえ、市の支援や取組における課題等を検証し、コロナ禍における屋外イベントの開催にあたって留意すべき事項を検証結果としてまとめた。

なお、お練りまつり奉賛会による検証結果は、4月28日飯田商工会議所会頭記者会見で報告される。

1 開催までの経過

長野県は、令和3年11月25日以降、参加人数が5,000人以上のイベントについて「感染防止安全計画」を策定し、長野県に提出して確認を受けた場合を開催基準とした。

飯田お練りまつり奉賛会では、当初新型コロナウイルス感染警戒レベルが4以下であれば感染対策を講じて開催、感染警戒レベルが5以上で中止を方針とした。飯田市ではお練りまつりへの補助金として、令和3年度当初予算で15,000千円を計上していたが、令和4年1月からの感染拡大の状況を踏まえ、安全・安心な感染対策をさらに強化する必要があると判断し、令和4年第1回臨時議会にて補助金を12,000千円増額して（計27,000千円）、感染防止対策のための受付体制づくりや、祭り会場の混雑回避対策、簡易検査キットの購入費等の経費を承認いただいた。

まん延防止等重点措置が3月6日に解除され、飯田市では、新型コロナウイルス感染症対策本部会議にて県の開催基準に準じて、屋外のイベントについて参加者数が5,000人超であれば「感染防止安全計画」を策定し、県に提出して確認を受けることをイベント開催の基準とした

3月7日に開催された飯田お練りまつり奉賛会総会にて、感染警戒レベル5の場合は県の示す基準に沿って「感染防止安全計画」を県に提出することに加え、簡易検査キットの配布や観覧者用受付の設置など新型コロナウイルス感染対策を強化したうえで開催することが決定された。

飯田お練りまつり奉賛会では、出演団体打ち合わせ会議を3月15日に開催して、各団体に求める具体的な感染防止対策をはじめとしたガイドラインの確認・周知を行った。翌3月16日には抗原定性簡易検査キットの配布とGPS位置情報システムサービス「NERIなび」の説明を行った。

奉賛会のこうした取組を踏まえ、飯田市としては奉賛会の実施判断を尊重することとした。

2 開催に向けた主な感染対策

(1) 観覧者対応

- ① 観覧者受付を設置し、検温、不織布マスクの着用確認を行い、受付済証のシールを配布（マスクに貼付）する。
- ② 不織布マスク着用、消毒の徹底、間隔の確保、飲食物持ち帰り、歓声の自粛等をHPや全戸配布リーフレット、公式ガイドブック、地元新聞への広告などで事前広報するとともに、当日の会場アナウンスや巡回スタッフによる呼びかけも行う。

③ 演舞場所にスタッフを配置し、密を避けるよう注意喚起を行う。

(2) 出演者対応

- ① 団体関係者の氏名、年齢、住所、連絡先を把握し、名簿を作成する。
- ② 共用物（笛やバチなど）の制限や使用前の消毒を徹底する。
- ③ 出演日14日前から各自検温を行い記録するとともに、団体責任者への結果報告を行う。
- ④ 参加日ごとに簡易検査キットによる検査を行い、陰性を確認する（検査したキットは氏名を記入し画像にて保存する）。
- ⑤ 演舞場所にて監視員を配置して、間隔の確保と歓声自粛の指導を行う。

(3) 主催者対応

- ① シャトルバスの乗車定員を70%に制限し、降車後の消毒を実施。
- ② 仮設トイレを30分に1回消毒し、間隔を空けるための目印を敷設。
- ③ 出店ブースの出店者を飯田下伊那の事業者に限定し、歩行者スペース確保のため露天の出店を片側のみとする。テイクアウトを徹底するとともに、アルコール販売を禁止とし、飲食スペースは設けない。
- ④ 既存店舗による店舗前での販売は、テイクアウトに限定し、アルコール販売を禁止とする。

3 飯田市の主な取組

飯田市では、受付業務（検温及び不織布マスクの着用確認と受付済証シールの配布を行う）や雑踏業務、それらにかかる受付済証シールの作成費や検温器など、また、G P S及び定点カメラを活用した会場内の混雑状況可視化に関する費用を支援した。

また、お練りまつり用に抗原定性簡易検査のキットを21,000個用意し、参加団体出演者、奉賛会事務局（商工会議所職員ほか当日スタッフ）、飯田市及び周辺の宿泊施設の観光客が参加日、観覧日ごとに検査し、必ず陰性を確認してから出向いていただくこととした。

これらの対策強化を支援するため、まつり当日の業務に当たる市職員は、当初予定より大幅に増員し全庁体制で協力した。市職員は、奉賛会事務局の配置、指示に従い業務従事した。

4 取組実績

(1) 受付シール配布枚数

- ① 3月26日：当日の入込数 70,000人 シール配布枚数 58,000個
- ② 3月27日：当日の入込数 100,000人 シール配布枚数 87,000個

※①②の両日の入込数は、中心市街地在住者及び関係者による自宅前での観覧、及び出演団体の人数として、1日あたり10,000人を含む。

(2) 検査キット配布数

- ① 飯田商工会議所への配布総数 5,000個 使用数 4,050個
(参加団体3,345個 受付スタッフ382個 商議所職員323個)
- ② 宿泊施設配布数 34施設（昼神温泉含む地域外からの観覧者） 3,535個
使用数 1,883個 検査結果による指導 0件
- ③ 参加団体への市からの直接配布 238個 使用数 204個 検査結果による指導 0件

※大宮神社神輿渡御、北方獅子舞保存会（春の巡業に合わせて申請による配布）

（3）飯田市職員動員数

① 総務、看護師等	12名
② 催し物	4名
③ 交通、臨時駐車場	22名
④ 会場	10名
⑤ 観覧者受付	94名
⑥ 雑踏対応	64名

業務に当たった市職員の意見等

① 観覧者受付について

- ・マスクにシールを貼るという方法は、シンプルで視覚的にもわかりやすく有効であった。
- ・受付が混雑する状況が生じた場合、確実に受付できるよう適切な人員配置が必要であった。
- ・マスクにシールがない人、不織布マスクでない人が見受けられた。
- ・駐車場の空き状況が確認できる「練りナビ」は便利で有効だった。

② 雑踏対応について

- ・多数の職員が蛍光色のジャンパーなど目立つ格好で巡回したことは、観覧者に感染対策を行っていることの周知がなされ、有効であった。
- ・プラカードの掲示のみの注意喚起に留まった（それなりの声を出すことになると飛沫を不安視される）ことで、感染対策への協力を求める訴求が薄くなっていた。
- ・路上での飲食などルールを守っていない方が散見された。

5 観覧者含む住民からの意見

飯田市政に対するやらまいか提言箱及びお問い合わせメールを通じて、お練りまつりに関して住民の方から、以下のご意見をいただいた。

- ・人混みの中で大声で喋っている人がいた。道端で飲酒や飲食をしている人たちもいて、規制はあって無いようなものだと感じた。
- ・受付を済ませず、マスクも無しで観覧している人がいた。万全な感染対策とは言えず、受付をするなら名前、住所、連絡先まで記入させてから観覧すべきであった。
- ・出演団体が、終わった後に慰労会をしていた。出演団体は感染対策に関して素人であるのに、実際の感染対策は団体に丸投げであった。
- ・不織布マスクの着用を呼び掛けていたが、出演者はマスクをしていなかったり、布マスクの着用のみの人も見受けられた。

6 奉賛会事務局から報告のあった「出演団体の感染状況及び対応」

（1）陽性者発覚までの経過

- ・2月7日から出演団体の練習を開始した。当初は班別の分散型の練習形態を3月7日まで続け、通常時であれば1、2班に分けていたが、7班に細分化して練習を実施。練習前に全員が事前に体温を測り、道具類も使用者が触る前に消毒を行った。

- ・ 3月7日からは全体での合同練習に移行。同様に練習前に体温を測って記入、道具類の使用前の消毒は継続。
- ・ 3月24日から演舞を開始。300名弱の出演者用に、新型コロナウイルス簡易検査キットを1250個用意し、3月27日までの4日間 毎朝検査キットの結果を写真にて班長及び団体内幹部に報告し、陰性を確認したうえで演舞に参加した。3月24日から3月27日までの4日間で陽性者は確認されなかった。
- ・ 演舞中は、動きの激しい出演者は一時的にマスクを外しており、それ以外は全員マスクを着用していた。不織布ではない団体特注のウレタン製マスクを着用する者が半数おり、半数は不織布マスクの上からウレタン製マスクを着用していた。
- ・ 3月24日、25日、26日の間は演舞終了後に食事などの会席は行われなかった。お練りまつり最終日の3月27日の演舞終了後、団体内の一部班で会席が設けられていたことが、団体内幹部に事後報告された。
- ・ 3月28日に出演者のうち2名に発熱などの症状が発生し、同日17:00に団体代表へ発症の連絡があった。病院にて検査を実施するよう指示を行い、同日18:00に両名の新型コロナウイルス陽性が発覚。

(2) 陽性者発覚後の対応

- ・ 3月29日に飯田保健所からの指導を受け、演舞者を中心に250名を濃厚接触者に指定した。その後、演舞の内容及びお練りまつり中の行動について、飯田保健所と協議する中で、濃厚接触者を100名に絞り、3月29日から4月2日までの5日間の自宅待機を命じた。
- ・ 自宅待機となった者については、4日目（4月1日）と5日目（4月2日）に検査キットによる陰性を確認できれば、4月3日から自宅待機を解除することとした。
- ・ 濃厚接触者に指定された出演者の家族についても、3月29日から4月2日までの5日間の自宅待機を命じた。
- ・ 自宅待機期間中に陽性となった者は、飯田保健所の指導に基づき自宅待機期間の延長や、指定施設での療養に移行した。最後の退院者は4月8日に退院しており、4月10日に団体内の役員会を開催して感染者対応の一部始終を確認した。
- ・ 飯田お練りまつり奉賛会は、参加団体からの陽性者発覚に伴い、3月30日、4月4日、4月11日に出演団体に対して、出演者の感染状況、健康状態、家庭内の状況などの確認を行った。参加25団体のうち24団体は健康状態はじめ全て良好であるとの回答を受けた。
- ・ 最終的に参加団体の出演者から陽性者28名、出演者の家族で陽性者5名を確認した。

※感染が発生した団体の感染状況等 ～ 奉賛会・団体調べ～

演舞の役割	出演前3回目ワクチン接種有無		感染した家族の自宅待機数		家族への感染の有無		感染者・濃厚接触者及びその家族も含めすべて通常復帰しているか	
	有	無	計	有	有	無	通常復帰済	後遺症あり
頭	26	3	計 38	有 5			通常復帰済	65
その他	2	25					後遺症あり	1
計	28		38	5			66	

※自宅待機者の総数は、3/29 250人→その後100人。表は、感染者に関する内数。

7 検証結果

- ・検査キットについて、出演団体からの聞き取りから、本来は鼻と喉からの採取が必要であるが、喉の採取が出来ていなかった可能性があることが判明した。有効であるはずが手技を誤ると機能されないことがわかった。
- ・上記6に記載した団体と異なる参加団体において、出演予定者1名が事前の検査キットで陽性を確認。出演を辞退したことにより、さらなる感染拡大を防止することができた。
- ・チーム単位で演舞される中で、陽性者は幌の一部分に集中しており、ある程度距離がある部分の出演者には感染者が出ていないこと、会食に参加した者以外からも出ていることから、感染場所は演舞中の一定の部分であったことが推測される。
- ・観覧者は、マスクの着用者が多数であり屋外であったことから、観覧が原因で感染が広がったとは特定できない。
- ・家庭内感染防止の呼びかけが必要であった。
- ・運営側のスタッフ数増強による感染対策の徹底だけでなく、来場される方に新型コロナウイルス感染対策の取組を知ってもらうことや、感染対策への意識を高めていただくことが重要である。
- ・イベントに携わるすべての関係者が、日頃から感染拡大防止について強く意識することは、イベント運営のために不可欠であるとともに、事前に感染症対策の十分な周知と理解が必要である。
- ・今回の検証結果により、検査キットの正確な採取による検査、特定の距離間の必要性、幌などの換気がよくない場所での換気の必要性であることを改めて認識できたことを今後のイベントに生かす必要がある。

1 基本的な考え方

(1) イベント等開催前

- ・長野県感染警戒レベルに応じたイベント中止又は規模縮小等の判断日及び基準を設ける
- ・参加者、スタッフ 2週間前からの健康観察及び日常生活における感染予防対策の徹底
- ・事前申し込み、受付における氏名等の記載により参加者の把握に努める

(2) イベント等の当日

- ・高熱または体調のすぐれない方の参加をお断りする
- ・参加者、スタッフ 可能な範囲で簡易検査キットによる検査を実施
- ・会場等での検温、手指消毒、マスク着用、室内施設の換気、密集回避等の徹底を図る

2 各イベントの対応

(1) 飯田やまびこマーチ【4/23(土)・24(日)】 ※屋外スポーツ事業

事前申込者数 851 人 内訳：県外 276、南信州圏域 561、南信州圏域外 14

感染警戒レベル	開催基準	参加者の居住地区分による参加可否、条件		
		南信州圏域	南信州圏域外	県外
6 以下	参加者、スタッフ 当日簡易検査を行い開催	○	○	○ 緊急事態宣言発出地域からの参加自粛を要請
感染警戒レベル6 緊急事態宣言発出で中止				

- ・関連イベント、会場内の飲食販売・提供中止
 - ・コース毎に時間をずらして受付・出発
- ※参加者・スタッフ全員の検査実施は、地域の感染状況を踏まえたもので、今後のイベントの統一した基準ではなく、飯田やまびこマーチに限定した対応。

(2) オーケストラと友に音楽祭【5/1(日)・3(火)・4(水)・5(木)】 ※屋内文化事業

感染警戒レベル	開催基準	入場制限	鑑賞者
4 以下	関係者全員 当日簡易検査を行い開催	定員の 1/2	南信州圏域の居住・在勤・在学者に限定
5		定員の 1/2、2 時間以内	
6	中止		

※音楽クリニックのうち中学生吹奏楽コースは中学校部活動の基準「他校と関わる活動は感染警戒レベル4 以上では実施しない」に従い中止。感染状況に応じて実施内容を変更する。

(3) いいだ人形劇フェスタ 2022【8/4(木)・5(金)・6(土)・7(日)】 ※屋内文化事業

感染警戒レベル	開催基準	参加劇団		入場制限	観劇者
		南信州圏域	南信州圏域外		
3 以下	参加劇団、スタッフ 当日簡易検査を行い開催	○	○	定員の 1/2	制限なし
4					南信州圏域に限定
5 以上	中止 判断時期 ①6月下旬(チケット販売開始)、②7月中旬、以降順次				

- ・マスクを外し会話するようなイベント中止
- ・飲食の販売・提供中止

※劇団・観劇者共に、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置発出地域からの参加はお断り

※狭くむし暑い屋内会場で、幼児から児童が大勢観劇する場面が多い事業であるため、レベル5でも中止する。

第24回 (2022) ツアー・オブ・ジャパン

信州飯田ステージ実施概要

1 開催趣旨

「ツアー・オブ・ジャパン」は、1982年より1995年まで開催された「国際サイクルロードレース」を継承するもので、1996年にUCI（国際自転車競技連合）公認のステージレースになったことを契機に現在の名称に変更され、国内を代表するステージレースとして位置付けられています。

1981年5月の自転車基本法の施行にともない、国民の自転車安全利用の促進と自転車を通じて国民の健康増進を図ることを目的として、毎年5月を「自転車月間」と定め、全国各地において自転車関連の諸事業が実施されるに至りました。

中でも「ツアー・オブ・ジャパン」は国内最高峰の国際的な大会ではありますが、「ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージ」を風光明媚な飯田における世界的なスポーツ大会として実施し、自転車を通じて青少年の国際交流と国民の体育の向上に寄与しようとするものであります。

2 名 称 UCI 公認国際自転車ロードレース

『2022 ツアー・オブ・ジャパン 信州飯田ステージ』－第1ステージ
(レースクラス：UCI アジアツアー2.2)

3 日 時 2022年5月19日(木) 10時～13時20分頃 (下久堅小学校グラウンド前)

4 コース

下久堅小学校前をスタートし、県道1号飯田佐久間富草線を通り、下久堅地区内の1周12.2kmを10周して、そのまま国道256号線を上り、再びスタート地点である下久堅小学校前でのフィニッシュとする。

5 チーム編成 8名(選手5名/監督1名/メカニック1名/マッサー1名)

6 出場チーム 全16チーム(海外1チーム※・国内15チーム) 総勢128名

※ 海外1チームはアメリカ国籍のチームであるが、出場選手についてはすべて国内選手となる。

7 事業内容

(1) ホームチーム制 「チーム右京」

大会全体を盛り上げるため、ステージ独自のホームチームを設定し、地元の人たちが「想いを込めて応援する」対象をレースサイドから造成します。

(2) 大会アンバサダー 「福島晋一様」

TOJで活躍してきた往年の各名選手や当ステージにご縁のあるレジェンドライダーなどが、会場解説者やプレゼンターを務め、ステージ全体を盛り上げていきます。

(3) 地域密着型の大会運営 「飯田コア学園 96名」

当日の運営は、市民の皆様や学生をはじめとする多くのボランティアスタッフの方々のご協力によって支えられております。

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、当日の選手とのふれあいはできません。

8 新型コロナウイルス感染症防止対策

(1) 開催の判断

長野県が示す感染警戒レベル1～5の場合は、感染対策を強化したうえで開催とし、感染レベル6の場合は、中止とする。

(2) 感染防止安全計画

感染防止安全計画を策定し、長野県へ提出をする。

(3) 基本的な感染防止対策

- ・飛沫の抑制
- ・手洗い及び手指、施設消毒
- ・密集回避、飲食の制限

(4) 参加選手への対応 【(6) TOUR OF JAPAN 全体における感染症対策事項】

参加選手については、本部が設置する専門の感染対策チームが対応し、参加選手と地元関係者及び観覧者との接触を制限する。

(5) 観覧者への対応

①観覧者用の受付の設置

- ・受付の場所を以下に設ける

大会本部3カ所（市役所下久堅自治振興センター前）、松尾総合運動場駐車場、グラウンド駐車場、下久堅運動場、下久堅親水公園マレットゴルフ場、水神橋、観戦ポイント数箇所

- ・受付では、検温、不織布マスクの着用の確認を行う。体温の高い方は、医療機関への連絡と会場内への入場をお断りする。
- ・マスク未着用者には、マスクを支給し着用を徹底する。

②観覧者の感染対策

- ・有症状者等が参加しないよう、事前に感染対策の周知徹底を図る。（広報、ホームページ等）
- ・観覧時に社会的距離（2m）の確保を徹底する。大会本部のスタート・ゴール地点及び観戦ポイントについては、巡回員を配置する。
- ・飲食は原則禁止とし、水分補給のみとする。地元の店舗で購入したものは家に持ち帰る。
- ・大声での会話や選手への応援を控え、拍手及び小旗での応援とする。
- ・事前に新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のインストールを推奨する。

(6) TOUR OF JAPAN 全体における感染症対策事項（本部における全ステージの感染対策）

①感染症対策チームの設置、帯同（医師を含む）。

②TOJ ホームページにおける関係者・参加者・観客に向けた本ガイドラインの掲載及び周知。

③関係者（観客を除く）参加者は、大会開催10日前から大会終了まで、行動履歴及び朝の検温、健康状態の記録を所定のフォームにて提出を徹底。

④関係者・参加者は、大会終了後1週間は各自の体調変化に留意し、発熱や体調不良等の症状が表れた場合は、主催者に申告し、濃厚接触者等の確認を行う。

⑤大会で規定された参加者は、ワクチンを2回摂取し、大会参加前48時間以内にPCRの陰性を確認。

⑥感染者発覚後の隔離（スペース確保を含む）、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化。

- ⑦感染症罹患者が発生した場合に備え、各開催地における医療機関や保健所と連携を図る。
- ⑧大会会場における入退場動線作成及びサーモグラフィ設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止。
- ⑨大会会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置。
- ⑩大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底。
- ⑪フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する。
- ⑫各食事会場、食事中においては、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控える。
- ⑬大会コミュニケ、スタートリスト、リザルト等は、極力メーリングリストや SNS を使用した配布とし、ペーパーレス化を図る。
- ⑭以下に該当する方は、大会へのいかなる参加（大会会場への来場、観戦含）も不可とする
- ・過去1週間以内から大会会場来場当日までに、下記 a～d を含む体調不良のある方
 - a. 体温 37.5℃以上 b. 強い倦怠感 c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等） d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある。
 - ・PCR 検査受診結果が陽性で、下記 a～d に該当する方
 - a. 有症状で、発症日から 10 日未満、かつ症状軽快後 72 時間以内 b. 症状軽快後 24 時間経過から、24 時間以上の間隔をあげ、2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない c. 無症状病原体保有者は、陰性確認から 10 日未満 d. 検体採取日から 6 日間経過後、24 時間以上の間隔をあげ、2 回の PCR 検査陰性を確認できていない。
 - ・濃厚接触者として自宅待機中、または家族が濃厚接触者として自宅待機中。
 - ・家族に過去 1 週間以内から大会会場来場当日までに、下記 a～d いずれかの体調不良者がいる。
 - a. 体温 37.5℃以上 b. 強い倦怠感 c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等） d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある。
- ⑮バブル方式によるコロナ対策
- 大きな泡で包むように大会を運営し、選手や関係者の外部との接触を遮断する「バブル方式」を適用。
- ・チームバブル（選手及びチーム関係者）
TOJ に参加する全チームの選手、監督、メカニック、マッサー、スタッフ、広報を対象とする。
 - ・コミセールバブル（日本自転車競技連盟、競技役員等）
TOJ で全レースの執務を行うコミセールを対象とする。
 - ・セミバブル（本部の大会運営スタッフ）
TOJ で全レースの執務を行う関係者を対象とする。

飯田保健所管内 陽性者数の動向

